

令和3年度

令和3年12月

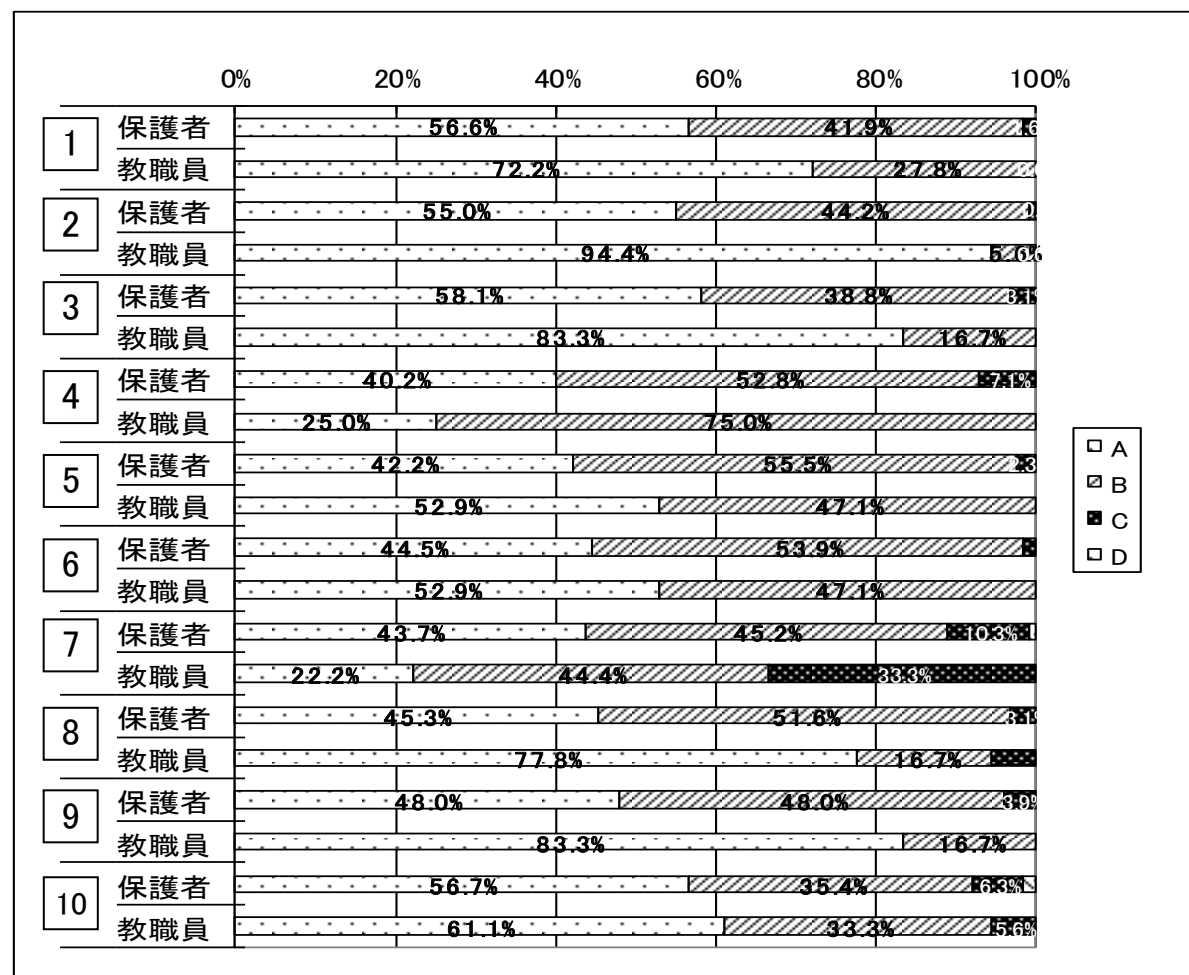
前期 学校評価アンケート結果について

京都市立乾隆小学校
校長 山本 太郎

前期学校評価アンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。以下の通り、アンケート集計結果をお知らせいたします。回収率は、81％でした。

保護者・地域、教職員 アンケート項目

- 問1 教育方針や取組内容を学校だよりや懇談会等の機会にわかりやすく伝えている。
問2 教育目標の達成に向けて、情熱を持って教育にあたっている。
問3 子ども一人ひとりが大切にされて、認められる学校づくりを進めている。
問4 宿題や家庭読書など家庭での学習習慣が身についている。
問5 教科の学習内容がわかり、基礎的な学力が身に付く取組を進めている。
問6 集団での規律やマナーなどが身に付くような取組を進めている。
問7 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身についている。
問8 子どもが成就感や満足感を感じながら学校生活を送れるような取組が進められている。
問9 子どもに力をつけてほしいという保護者の思いや願いに応えようする姿勢が見られる。
問10 様々な取組や行事等を通して、家庭・地域と協力して子どもの教育にあたっている。



A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない

アンケート結果から ※（ ）内は、昨年度9月との比較

問2『教育目標の達成に向けて、情熱を持って教育にあたっている。』では、「よくあてはまる」(55%)「ややあてはまる」(45%)を合わせて99%と高い評価をいただいています。教職員評価では「よくあてはまる」が94%（昨年比+18%）となっており、より一層熱意をもって指導に当たっている結果と考えます。

問4『宿題や家庭読書など家庭での学習習慣が身についている。』では、若干ではありますが昨年度より改善が見られました。「あまりあてはまらない」が7%（-4%）となり、「よくあてはまる」が40%（+2%）となりました。教職員評価では「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせると100%になり、「家庭学習はできている」という評価ですが、「よくあてはまる」は25%に止まります。この項目は、保護者評価は基本的に自分の子を中心に評価し、教職員は「学級（学校）全体」を総合的に見て評価をするため、評価の結果に差が生じます。なかなか家庭学習の習慣が身に付かない子どもに対しては、引き続き毎日の家庭学習を大切にするこの意味をしっかりと伝え、家庭との連携を図りながら、主体的に家庭学習に取り組む子どもを育てていきたいと考えています。

問5『教科の学習内容がわかり、基礎的な学力が身に付く取組を進めている。』は、学校教育で非常に重要な内容です。ここでは、「よくあてはまる」「ややあてはまる」との合計は98%と高い評価をいただいています。昨年度を7%下回りました。これは、残念ながら学校が保護者のみなさまの期待に十分に答えることができていないということです。全ての子どもが基礎・基本の学力を身に付けることができるよう、引き続き授業改善に取り組んでいきます。

問7『早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身についている。』については、昨年度と比較して改善がありました。「よくできている」は44%（+11%）となっています。昨年度は、2か月間にわたる全国一斉臨時休校が行われ、子どもの学校生活に大きな影響がありましたが、今年度は普段通りの生活リズムを取り戻すことができているようです。しかしその反面、「あまりあてはまらない」は10%と昨年度とほぼ同様の結果で、依然課題の大きい項目です。現在も、朝の登校時、始業時刻を過ぎてから登校する子どもの姿も見られます。高学年になるほど就寝時刻が遅くなる傾向があり、子どもたちの健やかな成長のためにも、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付くよう、引き続き家庭との連携を進めていく必要があります。

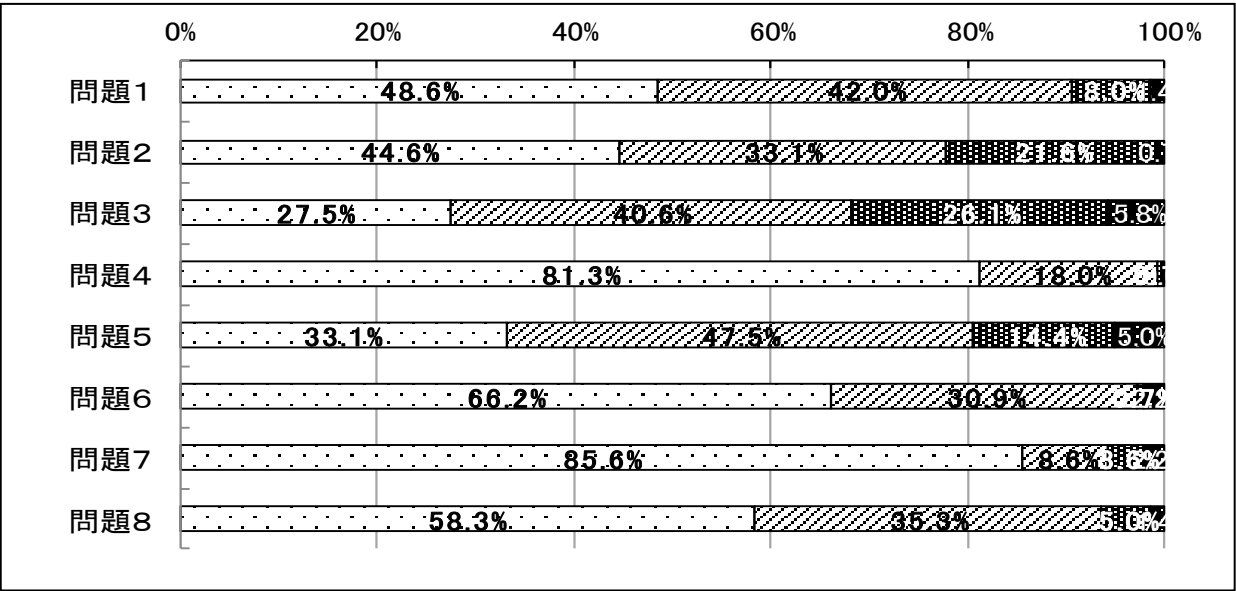
問10『様々な取組や学校行事等を通して、家庭・地域と協力して子どもの教育に当たっている。』については、「よくあてはまる」が56%（-12%）となり、厳しい評価でした。新型コロナウイルス感染症の影響で多くの学校行事が中止や見直しとなり、保護者や地域のみなさまに学校での子どもたちの様子を見ていただくことができない状況が続いています。今後の感染状況を見極めながら、どのような形であれば行事を行うことができるかを模索していきたいと考えています。

※この評価結果については、学校運営協議会の理事会でも報告させていただきました。理事の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- ・家庭学習の目的や捉え方については、保護者のなかでも様々な捉え方があるように感じる。各家庭の背景や事情も様々であり、なかなか難しい問題でもある。
- ・授業が分からない児童や主体的に活躍できない児童に対して学習指導が届くよう、取組を進めていく必要がある。
- ・子どもたち自身からの働きかけで、子どもの学校生活のルールが身に付くのは非常によいこと。
- ・基本的生活習慣の確立については、家庭学習の習慣と同様、各家庭の背景や事情も様々であるのではないか。今後も生活点検週間の取組など学校の取組との連携も必要である。

児童アンケート項目

- 問1 あなたは、学校が楽しいですか。
- 問2 勉強（授業）はわかりますか。
- 問3 授業中に発表していますか。
- 問4 宿題をしていますか。
- 問5 早寝早起きをしていますか。
- 問6 あいさつをしていますか。
- 問7 朝ごはんを食べていますか。
- 問8 使ったもののあとかたづけをしていますか。



アンケート結果から

「①あなたは、学校が楽しいですか。」については、A・B評価の合計が90.6%で昨年度とほぼ同様ですが、A評価は－5.9%の結果です。また、C・D評価の合計は、＋2.4%でした。今年度も、新型コロナウイルス感染症のために、学校生活も様々な制約を受けています。休み時間は、1日のうち中間休みか昼休みのいずれかしか運動場遊びができず、放課後の校庭開放も緊急事態宣言期間中は中止となりました。また、学校行事も中止や縮小を余儀なくされたものも多く、子どもたちにとって学校の「楽しさ」が、大きく削がれることになってしまっていることが要因の一つになっていると考えます。

「②勉強（授業）はわかりますか。」「③授業中に発表していますか。」は、昨年度とほぼ同様の結果でした。「②勉強（授業）はわかりますか。」では、A・B評価の合計が77.7%（±0%）でした。しかし、C・D評価の合計は22.3%で、およそ5人に1人いる「わからない」と感じている児童への指導の改善を図ることは必要です。今年度は、T.T.体制による授業を増やし、よりきめ細かい個別の支援の充実を図っているところです。「③授業中に発表していますか。」では、A・B評価の合計が68.1%（－1.9%）で、およそ7割の子どもは、授業中に自分の意見を発表することができていると考えています。しかし、C・D評価をした31.9%（＋1.8%）にあたる子どもたちへの支援をこれからも継続していく必要があります。乾隆校では、毎週金曜日の昼学習の「対話の時間」や日直のスピーチなど、「話す」機会、「聴き合う」場を設けています。このような機会を通して、友達の前で話をする経験を積み、自分の考えを伝える力を伸ばしていきたいと考えます。

昨年度、前年度比較でC・D評価が増加していた「⑤早寝早起きをしていますか。」「⑦朝ごはんを食べていますか。」の主に生活習慣に関わる項目では、A・B評価が増加しています。「⑤早寝早起きをしていますか。」ではA・B評価の合計が80.6%（＋14.2%）と大幅に改善し、「⑦朝ごはん

んを食べていますか。」でも、A・B評価の合計が94.2%（＋5.0%）という結果でした。昨年度は、2か月以上にわたる臨時休校の期間があり、この学校に登校できなかった期間中の家庭での過ごし方が、これら基本的な生活習慣に関する課題に影響していたと考えます。今年度は、通常に近い学校生活を送ることができているため、いずれも改善の方向を示しているといえます。

「⑧使ったもののあとかたづけをしていますか。」では、A・B評価の合計が93.6%（＋4.7%）となりました。特に、A評価は58.3%（＋12.1%）と大幅に増加しました。今年度は、児童会が中心となって学校生活をよりよいものにしていくための活動に積極的に取り組んでいます。子どもたちが自ら課題を見つけ、それをもとに毎月の行動目標を決め、全校で改善に向けて取り組んでいます。このような積み重ねが、形となって表れてきているのではないかと考えます。

自由記述欄より（※紙面の都合上、いただいたご意見の一部を抜粋して掲載しています。）

＜学校生活・学習に関して＞

○新型コロナウイルスが猛威を振るう中でのこれまでと違った教育環境で先生方も大変だと思いますが、子どもたちの為に色々考え、行動して下さり感謝しております。

○自習学習ノートや夏の自由研究等、いつも褒めて励ましていただき、本人のやる気につながっています。ありがとうございます。

▲各教科のテスト用紙はその都度持ち帰りさせていただけると助かります。不得意な部分や理解していない部分を学期末に知るのではなく、その都度家庭でも見直ししていけたらと思います。

※オンライン授業や時短などは検討されますか？

※タブレット等を使用した授業はどこまで進んでいるのでしょうか？

＜新型コロナウイルスに関連して＞

・学校で陽性者が出たとしても他の児童が濃厚接触者にならないよう感染予防の指導をお願いします。

・先生方には感謝しておりますが、行事が軒並み変更・中止になり、心身面、発達成長への影響がとても心配です。人との交流のなかで育つことが制限されるのが残念です。

⇒単元の評価テストは、その時点での学習内容の定着をはかるためのものですので、実施後はできるだけ早く返却し、保護者の方に確認していただくべきものです。それができておらず、大変申し訳ありませんでした。「学習のあしあと」としてテストをファイルに綴り、学校で保管する場合でも、返却時は必ず一度持ち帰り、保護者の方に確認をしていただくようにしていきます。

⇒タブレット端末（GIGA 端末）は、積極的に授業の中で活用を進めています。具体的には、デジタルドリルを使用した漢字・計算の習熟、インターネットを利用した検索での活用、学習用アプリケーションを使用したプレゼンテーションの作成や発表、教師が作成した教材の活用など様々です。また、Microsoft365『Teams』を活用した「WEB 会議」の練習も行っています。今後、学級閉鎖などの場合には、この方法でオンライン授業を行うことも想定しています。

⇒現在、高学年においては、週末のGIGA 端末の持ち帰りを実施しています。今後は、接続テストもかねて4年生以下でも持ち帰りを行っていく予定です。各学年のホームページでも、普段の活用の様子を更新していますので、ぜひご覧ください。

⇒学校では、今後もこれまで通り感染症対策を取り続けていきます。これまでの感染拡大を見ても、学校の中でクラスターが発生し、感染が拡大する例は少ないようですが、学校での感染拡大が絶対にならないというわけではありません。マスク着用の徹底、手洗い、換気、ディスタンスの確保や給食時の黙食、子どもが触れる場所のアルコール消毒など、リスクを可能な限り少なくするための対策を、今後も徹底して取り組んでいきます。